

『紀要』開学二十周年記念号に寄せて

学 長 大 澤 一 雄

昭和五十二年に『横浜商科大学紀要』創刊号が刊行されてから満十年を経た本年、第六卷が開学二十周年記念号として刊行される運びとなった。

本学では開学以来、「学術研究会」を中心として『横浜商大論集』を刊行してきたが、それが定期刊行物であることにより、掲載論文のページ数などに制約があり、大部の論文を掲載することは困難であった。そこで、十年前より不定期刊行物として『紀要』を刊行し、論文の原稿枚数の制限を設けることなく研究者の業績発表の便を図ることにしたのである。

『紀要』創刊号の刊行に際して寄せられた序文において、前学長松本武雄先生は『紀要』の刊行が本学の「学術振興の一助」となることを希望され、「末長く巻を重ねられますよう期

待」されているが、『紀要』がこれまで『論集』とともに着実に刊行回数を重ね、本学の研究業績発表の場としての機能を果しつつあるのはよろこばしいことである。

また本号には、国際交流事業の一環として北京第二外国語学院との間に締結された学術文化交流協定に基づき客員教授として来学された李長信氏が貴重な論稿を寄せられた。このようなことは『紀要』の創刊時には予想もされなかったことで、今後の横浜商科大学における学術の発展のためにも一つの良き刺戟を与えることになろう。

中国に「一根柴不燃」という諺がある。柴も一本だけでは火をおこすことはできないという意味であるが、本学の研究者全員の努力と研鑽によって『紀要』を抛りどころとする学問の炬火をかかげ続けていきたいものである。

昭和六十二年三月